

財務省

Ministry Of Finance

～採用リーフレット2024～ (一般職大卒程度)



国の信用を守り、希望ある社会を

次世代に引き継ぐ。

1年目、スタートライン

入省 1年目の水野笑香です。

就職活動中、私はこのリーフレットを読んでいる皆さんと同じく、将来への漠然とした不安を抱きながらも、人生において大きな一歩を踏み出そうとしている学生の一人でした。

不安でいっぱいの中、光が差す大きなきっかけとなったのが対面で参加した財務省の説明会でした。当初は財務省の業務を知る目的で参加しただけでしたが、そこで出会った職員の方々の人柄や誇りを持ち仕事に向き合う姿に深く惚れ込み、こんな個性あふれる素敵な方々と、私も一緒に仕事がしたいと強く思うようになりました。その思いに突き動かされ、“今できることはすべてやりきろう”という精神のもと、様々な対面の説明会に参加し、自分の目と耳で情報を取り入れ、官庁訪問対策に励みました。あの日、説明会に参加したことがきっかけとなり、自身の心境が変化し、今では憧れの先輩方と同じ採用チームで働くことができています。振り返ると、“人との出会い“に導かれてここにやってきたのだと思っています。だからこそ、今度は採用担当として、一人ひとりの学生との出会いを大切にしながら、当時の私が心惹かれた先輩のように、受験生から憧れてもらえる存在になれるよう前進していきたいです。

水野 笑香 令和6年採用



2年目、成長実感

入省 2年目の越後柚香です。

皆さんは昨年1年間を長かったと感じますか？短かったと感じますか？

私は、あっという間の1年間だったと感じる一方で、これまでの経験の中でも、非常に濃く、成長できた1年間だったと感じています。

ふと思い返した時に感じる、過ごした時間の重みというのは、その時間をどのように過ごしたかによって変わるのではないかと感じています。入省したての1年前は、右も左も分からず目の前の業務をこなすことで精一杯でしたが、今では業務それぞれにどういった意図があるのか考えながら取り組めるようになってきました。

まだまだ先輩の背中には遠いですが、この1年間で上司や先輩に支えていただき、財務省職員としてのスタートラインから一歩ずつではありますが歩き出していると実感しています。

皆さんの中には、中央省庁で働くことを不安に思う方もいるかもしれませんが、大丈夫です！私は「財務省に入省する」と決めた自分の選択は間違っていなかったと自信を持って言えます。財務省には、チーム一丸となって仕事に取り組み、お互いに支え合うチームワークの強さがあります。皆さんと財務省で同じ「チーム」として、一緒に成長できる日を楽しみにしています。

越後 柚香 令和5年採用

3年目、採用の集大成

入省 **3** 年目の安藤樹一です。

私は、入省当初から採用活動に携わっており、今年は主担当として、説明会の企画や採用パンフレットの作成等に取り組んできました。私は採用活動とは、ただの一業務ではなく、財務省の未来に繋がる重要な任務だと考えており、この2年間本気で向き合ってきました。採用活動は、人の人生を左右する責任が重い業務なので、時に重圧を感じることもありましたが、説明会に参加してくださった方々と話をする中で、皆さんの希望にあふれる熱量に触れ、採用活動に対する情熱が湧いてきたのは確かです。今年の採用活動は、私の3年目の集大成になります。私も皆さんの熱量に負けないうらい、情熱を燃やして臨みます。

財務省では、説明会で皆さんと話をする若手職員だけでなく、採用担当の上司や先輩職員も積極的に説明会や採用活動に協力しています。採用チームが一致団結して採用活動に取り組む姿からも、新しい仲間を迎え入れることへの我々の熱意を感じていただけるのではないのでしょうか。官庁訪問に向けて不安でいっぱいかと思いますが、是非とも財務省に訪れ多様な職員と話してみてください。きっと我々の採用に対する熱い思いが伝わるはずですよ。皆さんが官庁訪問で本来の力を発揮できるよう、我々採用担当が全力でサポートしますので、気兼ねなく頼ってください！皆様とお会いできることを楽しみにしております。

安藤 樹一 令和4年採用



4年目、終わりなき旅

入省 **4** 年目の畠山敦です。

自分が4年目であることが信じられないくらい、あっという間で濃密な時間を過ごしてきました。特に主計局で予算編成をやりきった時は、“自分の頑張りが世のためになること”を初めて実感し、これまでの3年間で一番達成感を味わえた瞬間です。財務省には頼もしく優秀な職員が数多くおり、自分の未熟さを痛感することもあります。その分常に成長し続けることを意識し、勉強の毎日を送っています。

自分に足りない部分は経験豊富な先輩が支えてくれ、それが刺激になって“私も誰かの役に立ちたい”という思いを強くしています。また最近では、後輩から相談を受ける場面も増えてきました。彼らのエネルギーに満ち溢れ、情熱的に仕事に取り組む姿勢や先輩世代が持っていないスキルや感性には多くの刺激を受け驚かされます。変化の激しい時代の中で、それぞれの世代が持つ力が交われば、より魅力的な組織になるのではないかと感じているため、私たちは皆さんの若い力を求めています。いつか後輩になるであろう皆さんと、机を並べ、切磋琢磨しながら一緒に働けることを楽しみにしています。官庁訪問当時は振り返ると、全ての面接官が私のパーソナリティを引き出してくれていると感じました。多種多様な人材が活躍できる財務省だからこそ、飾らずに「ありのまま」でいいと思います。自分らしさを存分に面接官にぶつけてください。

畠山 敦 令和3年採用

Q.面接ではどのような点を見ていますか？

渡邊 拓也

WATANABE Takuya

“自分の芯を持ちつつも
周囲との繋がりを
大切にしているか”

土谷 俊輔

TSUCHITANI Shunsuke

“物事について自分で考え
自分の言葉で説明できるか”

Q.面接ではどのような点を心がけましたか？

いつもの自分で

「面接だ」と意識すると緊張するので、「会話するだけだ」と自分に言い聞かせ、いつも通りの自分を出すことを意識しました。実際の面接では、緊張している私に対して、趣味などの答えやすい質問から始めていただいたので、リラックスして会話することができたと思います。



遠藤 隆也 (主計局総務課)

ENDO Takaya

R6採用

素直さ

適度な緊張感を持ちながらも、自分を取り繕わず、素直な気持ちと考えを伝えることを意識しました。控室では、若手職員の方が私たちの緊張を和らげるために話しかけてくださり、面接会場と控室でオンとオフのメリハリがつけられるような、リラックスして過ごせる環境を作っていただきました。

ありのままで

印象を良くしようとして、一度でも偽りの自分を演じると、どこかでボロがでてしまうのではないかと考えていたので、等身大の自分を見てもらおうことを心がけました。面接は複数回に渡りましたが、最後までありのままの自分をアピールできたことが、内定に繋がったのではないかと思います。



内野 皓陽 (大臣官房文書課)

UCHINO Koyo

R6採用

高橋 藍音 (大臣官房会計課)

TAKAHASHI Aine

R6採用

Q.どのような学生に魅力を感じますか？

社会人として目指す姿、理想の公務員像、なりたい自分など、どんな形でも将来のイメージを自分なりに持っている方は、自分で考え自分で行動する主体性や、自分をアップデートさせていく向上心を持っているかもしれない、と見ています。また、初心忘るべからず、といいますが、なぜ「公務員になりたい」「財務省に入りたい」と思ったのか、その理由をありきたりな表現でなく自分の言葉で鮮明に語ってくれる方は、例えば困難に直面してもその思いを原動力に頑張り抜いてくれる、という期待が高まります。



採用担当課長補佐
益子 直人

MASHIKO Naoto

Q.財務省のどのような点に魅力を感じましたか？

規模の大きさと幅の広さ

本省ならではの**業務の規模の大きさ**と、**多岐にわたる施策に携われる**点に魅力を感じました。財務省は様々な業務で他省庁との繋がりが多いため、自分の知見を広げられる省庁だと感じました。また、説明会で職員の方々と接して、職場や先輩職員の雰囲気の良いを感じ、自分が財務省で働いている姿を想像できたことが、最終的な決め手となりました。



君島 千桜 (主計局司計課)

KIMISHIMA Chio

R6採用



山中 福望 (主計局給与共済課)

YAMANAKA Fukumi

R6採用

職場の雰囲気

業務説明会や個別相談会での**職員の方々の雰囲気**に魅力を感じました。決して楽な仕事ではないはずですが、職員一人ひとりが働くことに誇りを持っているように感じ、自分もプライドを持って働きたいと思い、財務省を志望しました。また、財務省本省は基本的に**転居を伴う異動が無い**のも魅力の一つだと思います。

Q.長年に渡り採用に携わってきて、官庁訪問を控えた方へ アドバイスはありますか？

Ministry
Of
Finance



採用担当責任者
岡田 芳明

OKADA Yoshiaki

多くの選択肢を持つことは非常に重要です。できる限り説明会などに参加し、職場の雰囲気を感じ取り、職員の様子を知ることをお勧めします。自分がその職場で働く姿を具体的にイメージしてみてください。私自身、公務の現場で長年働いてきましたが、どの業務においても周りの人との繋がり大切さを実感しています。

これから何十年にも渡って働く職場ですので、業務内容以上に「人」が重要です。志望動機に職場の人間関係を挙げることは、面接官にも共感してもらえらるでしょう。

しかし、最も大切なのは「自分の考えを自分の言葉で伝える」ことです。最低限のマナーを守りつつ、自分の言葉で飾らずに話すことを心掛けてください。難しいかもしれませんが、不器用でも自分の言葉で伝えようとする姿勢は印象に残りやすく、良い結果に繋がる人が多いと思います。

Q.自身のどのような点をアピールしましたか？

前向きに取り組む力

自分の「**前向きに取り組む力**」をアピールしました。面接では抽象的な話をするのではなく、その力が発揮された**具体的なエピソード**も含めて伝えることで、話に説得力を持たせて面接官の方へ伝えられたのではないかと思います。



藤田 晋之佑 (国際局開発政策課)

FUJITA Shinnosuke R6採用



落合 祐太 (理財局総務課)

OCHIAI Yuta R6採用

責任感の強さ

自身の部活動での経験から「**責任感の強さ**」をアピールしました。また、一緒に働く姿を面接官の方にイメージしてもらえよう、この強みを財務省でどのように活かせるのか**自分の考え**をなるべく具体的に伝えました。

熱意

シンプルではありますが、「財務省に入りたい！」という**熱意**をアピールしました。実際に自分の肌で感じた財務省の魅力を面接官の方に説明できるよう、可能な限り対面で説明会に参加し、直接職員の方とお話するように心がけました。



佐藤 優衣 (主計局司計課)

SATO Yui R6採用

これからの皆さんへ

10th year

財務省で採用されて今年で**10**年目を迎えます。

これまで、「上司・先輩」から刺激を受け、「同僚・後輩」に支えられ、『人』と働くことの楽しさを感じ、仕事に取り組んできました。近年デジタル技術の進化により、私たちの生活や働き方が便利になる一方で、どこか以前よりもドライな一面を感じることはありませんか？新しい技術を取り入れ、時代に合わせた働き方に変えていくことは大切なことです。しかし、人と人が協力して働く職場では「挑戦し、失敗してもくじけず、悩み続け考えること」や「絆を築いていくこと」が希薄になってはいけないと思っています。想像してみてください。皆さんが働き始め、一人では乗り越えられない壁にぶつかった時、皆さんを助けてくれるのは何でしょうか？それはAIなどのデジタル技術ではなく、これまでの経験から得た「粘り強さ」や助けてくれる「仲間の存在」ではないでしょうか。財務省には、皆さんと共に成長し、どんな困難にも諦めず、共に挑んでくれる「人間力」あふれる職員がたくさんいます。

「一人前になるまで我々が面倒をみる。だから君も自信を持って挑戦して欲しい。」

これは、私が官庁訪問で財務省を訪れた際、面接官の方からいただいた言葉です。

この言葉が「財務省で働きたい！」という気持ちを後押ししてくれました。実はこの話には続きがあり、その言葉をくださった当時の面接官の方は、入省後に私の上司となり、今でも暖かく指導を続けてくれています。そして今年、その方に「採用担当チーフ」に任命され、こうして採用活動に携わらせていただいているのもどこか不思議な縁を感じています。

仕事の「内容」に魅力を感じる方、職場の「環境」に魅力を感じる方、共に働く『人』に魅力を感じる方・・・

それぞれだと思いますが、私のこれまでの経験、そして今の立場になり皆さんに自信を持って言えることは、

「“私たち”が責任を持って皆さんの成長をサポートします。だから皆さんも自信を持って挑戦してください。」

皆さんが財務省の門を叩いてくださり、一緒に働ける日を楽しみにしております。



採用担当チーフ
板倉 拓也

ITAKURA Takuya



We
welcome
you .